

近年、関東地方でウシの放牧はあまり見られなくなりました。手間のかかる放牧をやめて、厩舎での飼育が多くなったのです。そのほうが、給餌、搾乳などの世話や管理が合理的だからでしょう。牧草を丸めてラッピングして発酵させた「ロールベール・ラップ・サイレージ」（いわゆる牧草ロール）や、配合飼料での給餌が主流になっています。

しかし、ここ湯ノ丸高原では今でも広大な敷地で乳牛の放牧が行われています。湯ノ丸高原というのは、群馬県嬭恋村と長野県東御市（とうみし）の境にある「地蔵峠」の、群馬県側に広がる高地です。群馬県側は利根川水系、長野県側は信濃川水系で、いわゆる「大分水嶺」の一地点でもあります。冬はスキー場ですが、雪のない時期は乳牛が放牧されています。しかも自動車道との境に柵も何もなく、ウシのすぐそばまで寄ることもできます。

私は乳牛が丈の短い草を夢中で食べる姿を、たぶん初めて見ました。厩舎の配合飼料に比べて、草には栄養分が少なく、ウシの巨体を維持するには、ほとんど一日中草を食べ続ける必要があるのでしょうか。ヒトもカメラもまったく気にせず、一心に「ザクザク」と音をたてて草を食べ続けていました。

(2023年9月下旬／群馬県嬭恋村湯ノ丸高原)

